

ニンニク新品種誕生

田子町オリジナルブランド向上期待

田子町は14日、青森県産業技術センターの支援を受け開発したニンニクの新品種「たっこ一号」が、農林水産省から品種登録を受けたことを明らかにした。町内では長年、町外から持ち込んだ種でニンニクを生産。オリジナル品種の導入によって、生まれも育ちも「田子産」となり、全国に知られる「たっこにんにく」の価値のさらなる向上を狙う。2019年夏の市場デビューを目指す。
(金澤一能)



19年夏、市場へ 大玉、りん片数多く

町内ではニンニクの販売や加工を手掛ける事業所が立地し、「田子ガーリックステーキごはん」をはじめ、観光への活用も進むなどニンニク関連の産業が盛ん。

一方で、生産面を見ると、ピーク時の1990年代前後には約750戸、約250畝で栽培されていたのに対し、高齢化などで現在は約250戸、約130畝にまで縮小し、生産力の強化が課題となっていた。

種は町外へ持ち出されないよう管理する。品種登録と並行し、今年8月には生産を希望する農家95戸に種を販売しており、種を確保するための増殖に取り組んでいる。18年秋ごろから本格的な生産に入り、一般消費者が味わえるのは、19年度以降になる見込み。

町は10年度に同センター野菜研究所（六戸町）へ品種開発の協力を依頼。町内で昔から栽培されていた南部町（旧福地村）発祥の「福地ホワイト」の中で、大きさと形、病気の耐性などに優れた特性の種を選抜し、育苗していた。15年度に種苗法に基づく品種登録の申請を行い、先月24日付で認められた。

町によると、新品種は従来の福地ホワイトに比べて大玉で、りん片数が多いのが特徴。色は同等の白さという。

新品種に登録された「たっこ一号」
(田子町提供)

独自品種によって他産地との差別化や種の安定供給による生産規模の計画的な拡大が期待される。町は改定作業中の「たっこにんにく産地力強化戦略」に新品種を加えた振興策を盛り込む考えだ。

町産業振興課の工藤義広課長は「町のオリジナル品種ができたことで、ブランドの価値を一段上に押し上げることができ、生産者の意欲向上につながる」と産地力強化に期待した。

平成29年11月15日デーリー東北 掲載

この画像は当該ページに限ってデーリー東北新聞社が利用を許諾したものです。